

日韓教育文化交流事業 韓国訪問報告書

平成30年12月26～28日

日頃より日本教育連盟の事業にご協力を賜りまして感謝申し上げます。

平成30年度日韓教育文化交流事業 韓国訪問が無事終了いたしましたので、その概略をご報告申し上げます。

1 研究協議会

開催日 12月27日(木) 韓国 ソウル 教総会館 14時30分～18時

◇開会式

自己紹介

挨拶 ハ・ユンス会長、山本聖志会長

◇研究発表

(1) 韓国 発表者 イ・ファウン先生 仁川(インチョン) ソンイル小学校教師

テーマ:「教育正常化のための学生の基本的生活習慣の形成」

○基本的生活習慣が将来の幸福につながり、教育正常化の土台となる。

給食・掃除・言葉遣いに関する取組について紹介

給食(安全:アレルギー対応、清潔:手洗い30秒以上+消毒、

環境教育とのつながり(食べ物を大切に、食べられる量を取り残さない)

掃除(自立のため一人一役で教室の仕事を割り当ててやらせる)

言葉遣い(「尊敬語の日」学校暴力との関連で、きれいな言葉遣いを啓発する掲示物、尊敬語の日Tシャツの作成。悪口が減った)

○「よく聞くこと」を大切にする指導、挨拶運動、読書の習慣づけの取組について紹介(相談師の活用、読書をテーマとした学級新聞づくり、

図書館の活用、読書記録など)

(2) 日本 発表者 東京都江東区立明治小学校 喜名朝博校長先生

テーマ:「基本的生活習慣の育成 その現状と課題
～朝食と睡眠時間に着目して～」

○朝食を食べないことは基本的生活習慣の乱れ、気力・体力低下の要因と指摘されている。

○基本的生活習慣について

①家庭教育(いわゆる躾) ②幼児教育

③小学校教育 基本的生活習慣 小学校でも繰り返し指導

○子供たちの基本的生活習慣に関する実態調査(グラフ集計)の発表



○基本的な生活習慣の定着に向けて
2006 早寝早起き朝ごはん 国民
運動

食育の推進 (日本でも栄養教諭
と栄養士)

インターネット利用に関する指導
情報モラル教育 SNS 東京ルール

○終わりに 睡眠時間の確保、朝ご
はん、自分の体と健康への関心
そのために家庭・学校・社会がそ
れぞれの役割と責任を果たすことが必要。



2 学校訪問 訪問日 12月27日(木) 10時~11時30分
訪問先 仁川松一小学校視察

平成30年12月27日(木) 午前8時にホテルを出発し、9時に学校に到着。

図書室の奥にある会議室において、ホ・ジェウン校長先生から挨拶をいただき、その後、スライドを使いながらイ・ファウン先生より学校の概要説明をしていた。

仁川松一小学校は幼稚園併設の2015年に新設された学校で、小学校は児童数が1年生から6年生まで男子408名、女子437名、計845名(2018.3.5現在)の大規模校である。

学校の教育方針は「松一 CHANGE up!」であり、changeの頭文字で表されていました。Consilience(知の統合)、Health(健康・体力づくり)、Ability(コアコンピタンスの育成)、Not alone(共に生きる知恵)、Give a hand(学びの分かち合い)、Experience(様々な体験プログラム)。どんな子どもに育てたいかがこの方針によく現れていると感じた。



仁川松一小学校全景

埋め立て地域の松島新都心地域に建てられた学校は施設・設備も最新のものであり、少人数で行われる授業では、児童たちは真剣に授業に取り組んでいた。

学校概要説明をしていただいたイ・ファウン先生の授業では児童たちが読んだ本について、ペアで紹介した後にクラス全体に発表するといった児童の主体性を重んじる授業が行われていた。

小学校5年生の英語の授業は電子黒板を有効に使いながら、児童生徒たちの発話が増える工夫が見られた。

テレビの放送ができる放送室、パソコン室、給食室、相談室、体育館など様々な部屋も見せていただいたが、窓や壁に英語で書かれた“Dream Big!” “Aim High!” “夢を大きく!” “目標を高く!” というスローガンにはこの小学校が児童たちにかかる強い愛情と大きな期待を感じた。



床暖房付きの読書コーナー



また、すべての教室の前方に当たり前のように韓国の国旗が掲げられているのが印象的であった。韓国人の知り合いの高校教師に聞いたところ、韓国では高校でも国旗が教室に掲げられているとのことだった。

この視察を通して、韓国の素晴らしい教育実践に触れることができた。

3 統一展望台

○12月28日(金)

午前8時にホテルを出発し、最後の研修地である烏頭山(オドゥサン)統一展望台に向った。

統一展望台に近づくにつれ、川沿いに張られた有刺鉄線や監視カメラ、監視小屋があり、緊張感のある状況を実感した。

統一展望台に到着し、バスを降りると、ホテル前とは確実に異なる気温の低さを感じた。

到着後、はじめに4階の展望休憩室でビデオ解説を日本語バージョンで聞くことができた。



その中で、南北関係の状況を知ることができた。

屋外展望台では、望遠鏡が何台も設置されており、容易に対岸の北朝鮮の生活の様子を垣間見ることができた。厳寒の中だったが、人々の日常生活があることを実感できた。

かつては川を泳いで脱北してくる者がいたということで、警備態勢も大変厳しい時期があったようだが、現在はそのような面影もなく、観光地化しているようにも思えた。

また、1階の南北関係史のコーナーにはこれまでの統一に向けた韓国政府の思いを感じることができた。

北緯38度線を跨いで、滔々と流れるイムジン河を挟んで向こうは北朝鮮。朝鮮民主主義人民共和国を遥かかなたにのぞみつつ、そこにある建物、動く人々までが幻のように思えてならなかった。